

中間とりまとめにおいて示された課題

中間とりまとめにおいて示された航空分野における主な課題

- ・グローバル化の進展・アジアの急成長に直面するとともに、国内的にも少子高齢化・人口減少が進展し、地方経済が厳しさを増す我が国において、航空が果たすべき役割は何か
- ・利用者が航空サービスを多様な選択肢の中から利用できるような環境整備をどうすべきか
という基本的問題意識をもとに、航空分野における主な課題として以下のとおり認識

1) 国際航空需要等の今後の新たな需要への的確な対応

- ▶ ①空港における的確な対応
- ③航空協定等の多様な国際的枠組みの構築
- ②航空管制における的確な対応
- ④観光施策と連携した需要の取り込み

2) 競争の激化に対応した事業者による円滑かつ信頼のおけるサービス提供の確保

- ▶ ①事業者の競争力の強化（公租公課等のあり方）
- ②航空利用者の安全・安心の確保
- ③事業者間の連携や他モードとの連携の促進

3) 「整備」から「運営」へのシフトに対応した今後の空港経営

- ▶ 空港経営改革の円滑な実現

4) 今後の地方航空ネットワークのあり方

5) その他の課題

- ▶ ①航空分野における今後の環境対策の検討
- ②航空分野におけるインフラ海外展開の推進

中間とりまとめ 第12回基本政策部会関係抜粋

2.3 「整備」から「運営」へのシフトに対応した今後の空港経営に関する課題

2.3.1 空港経営改革の円滑な実現

空港経営改革については、運営形態の如何を問わず、空港及び空港ターミナル関係の各種コストの低減等を通じた効率的な運営による果実を空港の利用者及び地域に還元していく観点から重要な課題である。今般、その選択肢の1つとして、空港運営の民間委託に関する制度を整備したところであり、その実現に向け、各空港の実情に即した制度的・実務的措置が求められる場合における機動的な対応を採ることが必要である。空港経営改革にあたっては、事業者・住民・行政関係者等が広く協調して空港を戦略的に活用し、まちづくりや地域経営に活かすことにより、地域活性化を実現するための方策を追求していくべきである。その際、同一都市圏内の複数空港の関係等にも留意して議論すべきである。

2.5 その他の航空分野における課題

2.5.1 航空分野における今後の環境対策の検討

航空分野における環境対策のあり方も重要な政策テーマであり、これまでも、環境負荷の排出源となる航空機について、環境対策の改善が絶え間なく進められるとともに、空港周辺環境対策事業が着実に実施されてきたところである。近年、低騒音機の普及や航空機・空港の省エネ化が進んでいることも踏まえ、これらをより促進する方策や、時代に即した環境対策のあり方について検討することが必要である。

2.5.2 航空分野におけるインフラ海外展開の推進

また、我が国の航空・空港関係者が培ってきた運営のノウハウや技術を、需要増が見込める世界の航空市場へ積極的に売り込み、我が国の経済発展に貢献する新たなツールとすることも重要である。そのため、官民一体となった受注・サービス提供体制の構築、資金調達手法の多様化等への取組みについて考えていくことが課題である。